

教育委員会協議会 会議録

平成29年度第4回教育委員会協議会

場所：高知共済会館 3階「桜」

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成29年12月4日(月) 18:00

閉会 平成29年12月4日(月) 20:15

(2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

出席委員	教育長	田村 壮児
	教育委員	平田 健一
	教育委員	竹島 晶代
	教育委員	八田 章光
	教育委員	中橋 紅美
	教育委員	木村 祐二

(3) 高知県教育委員会会議規則第8条、第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	北村 強
〃	教育次長	藤中 雄輔
〃	教育次長	永野 隆史
〃	教育政策課課長	酒井 啓至
〃	高等学校課課長	高岸 憲二
〃	高等学校課企画監(再編振興室長)	山岡 正文
〃	教育政策課課長補佐	泉 千恵
〃	高等学校課課長補佐	藤田 優子
〃	教育政策課チーフ	津野 哲也
〃	高等学校課再編振興担当チーフ	池上 淑子
〃	高等学校課指導主事	野中 昭良(会議録作成)
〃	教育政策課指導主事	小島 文晴(会議録作成)

【開会】

田村教育長	<p>ただいまから、県立高等学校再編振興計画の「後期実施計画」に関する、第4回教育委員会協議会を開会させていただきます。最初にご挨拶を申し上げます。</p> <p>本日は、県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」について検討します教育委員会協議会を開催いたしましたところ、いの町池田町長様、土佐市板原市長様、本山町高橋教育長様、土佐町澤田教育長様におかれましては、大変ご多用のなか、ご発言のためにご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>またそれ以外にも、この問題に関心を持ってご参加いただいております方々に、ご出席を感謝申し上げたいと思います。</p> <p>この県立高等学校再編振興計画は、急速に減少していきます生徒の数を見据えながら、南海トラフ地震の津波への対応をも考慮し、また、情報化、</p>
-------	--

竹島委員	<p>グローバル化が進み、変化の激しい時代に対応するための、安全で、より良い教育環境を実現するための、県立高等学校の在り方を示そうとするものでございます。</p> <p>平成 26 年 10 月に、平成 26 年～30 年度までの「前期実施計画」と併せて策定をしております。この計画の中では、「前期実施計画」の期間中に、平成 31 年～35 年度を期間といたします「後期実施計画」を策定するというようにしてございまして、先日、10 月 24 日を皮切りに、この教育委員会協議会をスタートさせていただいております。</p> <p>県立高校は、地元の皆様方大変お世話になっております。その一方で、県立高校に対する、様々なご期待もいただいているところでございます。</p> <p>そういったことから、県内を5つのブロックに分けまして、それぞれの地元の皆様からお話を聴いて、それをこの計画に反映させていきたいということで、こういった会を開催させていただいております。</p> <p>「前期実施計画」においては、教育委員会の方でたたき台を作成いたしまして、その後、ご意見を聴くというような手順をしたために、色々と、その後の混乱もございました。ということもございまして、今回は検討の初期からご意見を伺って、できるだけご意見を反映させる形で計画をつくっていききたいと、そういうことで開催させていただいておりますので、どうかよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それでは、本日の議事録への署名人は竹島委員、よろしくお願ひいたします。</p> <p>はい。</p>
------	--

【議題】

○県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」の策定について

田村教育長	<p>まず最初に、県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」策定の資料について、高等学校課から説明をしてもらいます。</p>
山岡企画監	<p>まず議題 1 の、県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」の策定についてというところで、資料 1～資料 5 につきまして、簡単にご説明をさせていただきます。</p> <p>資料 1 です。県立高等学校再編振興計画は、平成 26 年 10 月に策定いたしました。その実施計画の後期分、平成 31 年度～35 年度の策定スケジュールを載せております。</p> <p>まず、「後期実施計画」の「中間とりまとめ（たたき台）」を、来年 4 月に策定するに当たり、教育委員会協議会という公開の場で、広く県民の皆様の意見を聴きながら、取組を進めていきたいと考えております。</p> <p>前回は、事務局のみでたたき台を決めていましたが、今回の「後期実施計画」の策定は、たたき台を出す前の段階から、広く地域の皆さんの声を聴きながら、丁寧に進めていきたいと考えています。</p> <p>1 回目の教育委員会協議会は、10 月 24 日に開催し、県立中学校・高等学校の現状等に関して協議をいたしました。</p> <p>2 回目～6 回目までは、東部、中部、北部、高吾、幡多の各地域に出向</p>

いて、地域別に、各地域内の学校についての再編振興に関する意見を聴く会議、地域会を開催することとしています。本日は地域会の第3回目です。

7回目以降は、地域会で出た意見を踏まえながら、「中間とりまとめ（たたき台）」の策定に向けて、委員の皆様にご協議いただくことにしています。

平成30年度当初、4月下旬に「中間とりまとめ（たたき台）」の決定を行い、その内容を公表したいと考えています。

それ以降は、「最終とりまとめ（パブコメ案）」の策定に当たり、大きな影響が予想される学校の関係者、校友会やPTAなどにも参加していただき、開催したいと考えています。

平成30年9月ごろに、「最終とりまとめ（パブコメ案）」を決定し、12月ごろには、「後期実施計画」を策定したいと考えています。

次に、資料2の津波浸水域の県立高等学校一覧について、ご説明させていただきます。

津波浸水域にある県立高等学校は13校あり、最大クラス（L2）の地震・津波が発生した場合で、堤防なしの時の浸水深と、30cmの津波が到達するまでの時間を表にしています。

浸水深が最も大きいのは、土佐清水市の清水高校で、浸水深が12mであり、この地域では、高知海洋高校が8mなどとなっています。

また、30cmの津波が到達するまでの時間が最も短いのは、清水高校が11分であり、この地域では、高知海洋高校が25分となっています。

また、高知南中学校・高等学校につきましては、高知西高等学校と統合し、新たな高知国際中学校が、津波被害の想定されない高知西高等学校の敷地に、平成30年4月に開校します。

前期実施計画における南海トラフ地震への対応として、適地への移転や、そのための統合の可能性を含め、対応を検討することが必要な学校は、安芸高校、高知南高校、須崎高校、宿毛高校、清水高校の5校となっています。

避難場所としては、その横の表にありますけれども、校舎の上の階や屋上といった学校が7校ございます。

続きまして、資料3をご覧ください。地域別中学校卒業生数の推移についてご説明させていただきます。

「前期実施計画」でも、時点は違いますが、同じグラフを載せておりました。今回のグラフは、平成29年3月までが実績で、平成30年3月以降が推計になっています。

平成29年3月の卒業生は6,543人であり、平成25年3月を基準とした場合、4年間で▲（マイナス）238人、▲3.5%となっていますが、平成35年3月の卒業生は5,543人であり、10年間で1,238人の減、▲18.3%となっています。

また、平成25年3月を基準とした場合、平成29年3月の卒業生を地域別で見ると、高吾地域が▲118人と、減少した人数、減少した割合ともに他の地域に比べて大きくなっています。

また、平成25年3月を基準とした場合、平成35年3月の卒業生を地域別で見ると、減少すると見込まれる人数は、中部地域が最も多く551人、次いで高吾地域、幡多地域がともに252人の減となっており、減少すると見込まれる割合は、北部地域が最も高く36.5%、次いで高吾地域が34.0%

となっています。

続きまして、資料4をご覧ください。平成27年度以降の入学者数又は在籍者数の実態について、ご説明させていただきます。

平成27年度から平成29年度までの全日制、多部制単位制（昼間部）、多部制単位制（夜間部）、定時制夜間部ごとの入学定員、入学者数及び在籍者数の一覧表です。

県立高等学校再編振興計画における生徒数の最低規模について、簡単にご説明いたします。

全日制の本校の最低規模は、1学年2学級以上が必要としています。

ただし、過疎化が著しく近隣に他の高等学校がないといった中山間地域の学校は、最低規模を1学年1学級20人以上などとするにより、できるだけ維持することとしています。

また、不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒などを受け入れる体制を整えた学校についても、最低規模を1学年1学級20人以上として、維持することとしています。

また分校は、本校や地域との連携に取り組みながら、教育の質を維持するため、最低規模を1学年1学級20人以上としています。

また、定時制夜間部の学校は、学校全体の生徒数、在籍者数を20人以上に緩和して、各地域での維持に努めることにしています。

それぞれの学校の最低規模がどのようになっているのかは、表の右に「最低規模」という欄がありまして、該当するものに「●（黒丸）」印が付いています。

それぞれの年度において、白抜きとなっているのは、最低規模を下回っている学校であります。

濃い網かけとなっているのは、入学定員に対して入学者数が40人、1クラス以上少ない学校、学科です。薄い網かけとなっているのは、入学定員に対して入学者数が半分以下の学校、学科であります。

この地域の状況について、まず全日制からご説明いたします。

嶺北高校は、定員80人に対しまして、平成27年度から平成29年度までの入学者数が、26人、22人、29人となっています。最低規模は1学年1学級20人以上なので、最低規模は上回っております。

続きまして、高知追手前高校吾北分校は、定員40人に対して、平成27年度から平成29年度までの入学者数が、23人、23人、19人となっています。最低規模は1学年1学級20人以上なので、平成29年度は、最低規模を下回っています。

次の資料5でもご説明いたしますが、分校につきましては、2年連続して入学者が20人に満たない状況になった場合、その翌年からの募集停止を検討することになっています。

また、高知丸の内高校の音楽科は、定員30人に対しまして、平成27年度から平成29年度までの入学者数が、20人、21人、13人となっています。平成29年度は、定員の半分以下となっています。

高岡高校は、定員80人に対して、平成27年度から平成29年度までの入学者数が、42人、37人、40人となっています。最低規模は1学年1学級20人以上ですが、平成28年度と平成29年度は、定員に対して40人以上下回っています。

<p>田村教育長</p> <p>各委員</p>	<p>次に、高知海洋高校は、定員 80 人に対して、平成 27 年度から平成 29 年度までの入学者数が、51 人、58 人、39 人となっています。最低規模は 1 学年 2 学級以上ですけれども、29 年度は定員に対して、40 人以上下回っている状況になっております。</p> <p>それ以外の、この地域の学校につきましては、定員を大幅に下回っているという状況はありません。</p> <p>続きまして、資料 5 をご覧ください。「前期実施計画」からの継続検討事項、及び適正規模に関する検討事項です。</p> <p>この地域では、県立高等学校再編振興計画で定めた適正規模に関する検討事項として、5 つのうち、(2) 分校という所が該当します。</p> <p>ただし、適正規模に関する検討をすと言いましても、学校や地域の振興策も踏まえるとともに、地域会における地域の皆様からのご意見も十分に聴きながら、丁寧に進めていきたいと考えております。</p> <p>県立高等学校再編振興計画では、分校の最低規模は、少なくとも 1 学年 1 学級 20 人以上であり、2 年連続して 1 学年 1 学級 20 人以上を満たさないこととなった時は、その翌年からの募集停止を検討するものと記載されています。</p> <p>この基準も、従前の「入学者が 20 人に満たない状況が 3 年間で 2 度ある」という基準から、緩和したものとなっています。</p> <p>この点、現状課題としましては、高知追手前高校吾北分校は、平成 29 年度の入学者が 19 人となり、今年度、最低規模を下回る状況となっています。</p> <p>ただし、平成 27 年度と平成 28 年度が、それぞれ 23 人であり、20 人以上という最低規模を上回っており、2 年連続して入学者が 20 人に満たない状況ではありませんので、現時点で募集停止を検討するといった状況にはありません。説明は以上です。</p> <p>この件は、今まで何回か説明させていただいているところですので、よろしいですか。</p> <p>構わない。</p>
-------------------------	---

○北部地域・中部地域②の県立高等学校の現状、今後の状況について

<p>田村教育長</p> <p>山岡企画監</p>	<p>それでは、続きまして、北部地域、中部地域の県立高等学校の現状、今後の状況について説明をしてもらいます。</p> <p>資料 6、「前期実施計画」で明記した学校の在り方に係る現在の状況について、ご説明をさせていただきます。</p> <p>1 番の嶺北高校につきましては、嶺北高校は、嶺北中学校、土佐町中学校と連携型中高一貫教育校であります。学校行事や部活動で、中高が連携して取り組んでおります。嶺北中学校卒業者の嶺北高校への進学割合は、年度によって増減がありますが、4 割～6 割程度となっています。</p> <p>嶺北高校は、地域との連携に積極的に取り組んでおり、高校生の自主活動は、自主防犯組織や、地域活性化を目指した商品開発などを行っており</p>
---------------------------	---

ます。

文部科学省の遠隔教育の指定を受け、岡豊高校との授業交流に取り組んでおります。

続きまして、2番目の高知追手前高校吾北分校です。吾北分校は地域の伝統芸能の発展のため、クラブ活動として、清流太鼓に取り組んでいます。

国公立大学への進学者を出すなど、進路指導としても丁寧な個別指導の実績を残しています。

文部科学省の遠隔教育の指定を受け、高知追手前高校本校との授業、生徒交流に取り組んでおり、本年度は、遠隔授業による単位認定を実施しております。

3番と4番は、前回の第2回の地域会で行いましたので、次のページの8番、高知東高校へ飛びます。

8番の高知東高校は、総合学科で5系列を設け、多様な科目を選択できることにしており、進路は3年平均で、8割が進学、2割が就職となっています。平成28年度は、9割が進学で、国公立大学への進学者が5名となりました。

看護科は、従来から、全員が国家試験の合格を果たしています。

続きまして、9番の高知南中学校・高校は、平成26年度からグローバル教育を推進しています。平成32年度が最後の入学生となり、平成35年度で統合を完了いたします。

高知南高校につきましては、大学への進学が、76名の38.4%で、国公立大学への進学は28名ということになっております。

続きまして、10番の高知工業高校でございます。高知工業高校は、高知工科大学と連携した探究型学習を行っておりまして、測量士などの資格取得のための指導体制も整備されております。

進学と就職は、5：5、半々の割合で、国公立大学にも20人以上が進学、公務員試験にも10人程度合格しております。

続きまして、11番の高知追手前高校です。高知追手前高校は、80%以上の生徒が部活動に所属するとともに、卒業生の半数が現役で国公立大学に合格するほか、医学部にも合格者を出しています。

また、難関私立大学への合格者数も多く、県全体の進学指導力の向上に大きく寄与しております。

続きまして、12番の高知丸の内高校です。高知丸の内高校は、学力向上に向けた取組を行うことにより、センター試験の受験者がこの2年間で倍増しておりまして、国公立大学への進学者も増加しております。

また音楽科では、市内中学校との合同練習、公開レッスンなども実施しております。

そして、高知丸の内高校につきましては、チャレンジ選抜Aでは、本年度12人受験し、10人が合格するといったようなことです。過去にチャレンジ選抜Aで合格した生徒で、国公立大学に進学した生徒もいるというふうにお聞きしております。

続きまして、13番の高知小津高校でございます。高知小津高校は、理系の充実を教育目標に掲げ、大学進学者の6割が理系となっています。スーパーサイエンスハイスクール事業は、平成29年度からも連続4期目の指定を受け、県内外の大学との連携を積極的に行っております。

進学実績としても、全体の約 65%が大学に進学しております。

続きまして、14 番の高知北高校でございます。高知北高校の昼間部につきましては、高知大学生による学生支援員制度を実施しております、週に数回、生徒への学習支援や進路に関する相談等を担ってもらっております。

そして、昼間部につきましては、大学へ 8 名、13%が合格しております。国公立大学へも 1 名合格しております。進学が 33 名、就職が 4 名という割合になっております。

続きまして、高知北高校夜間部につきましては、卒業生の高知大学院生などによるサポート指導を実施しております、特に 1 年次の数学では、基礎学力の定着を図っているというところでございます。

夜間部につきましては、大学合格者が 1 名、国公立大学への合格者も 1 名ということになっております。なお、就職者は 16 名というような内訳になっております。

通信制につきましては、入学してくる生徒のうち、約半数が中学校の新卒者、残りが公私立高校の中途退学者であり、近年は、中学校の進路指導の際の選択肢の一つとして、通信制が認識されてきております。

続きまして、高知西高校でございます。高知西高校は、文部科学省のスーパーグローバルハイスクールの指定を受けておりました、平成 27 年度から 5 年間の指定になっております。今年、中間評価を受けましたけれども、6 段階の上から 2 番目というところで、かなり高い評価を受けております。

高知西高校としましては、平成 32 年度が最後の入学生となり、平成 35 年 4 月に統合完了ということになります。平成 30 年 4 月、高知国際中学校が開校し、平成 33 年 4 月に高知国際高等学校が開校いたします。

大学合格につきましても、大学進学が 170 名ということで、61%を占めております。また、国公立大学へは 97 名が合格をしております。

続きまして、春野高校につきましては、総合学科として 4 系列を設け、多様な進路希望に対応できるようにしております。

1 年次は、習熟度別による少人数授業。2 年次は、3 日間のインターンシップ。3 年次は、3 年間継続した学習生活記録シートの作成により、面談や引継ぎ資料、進路選択などに役立っているというような状況でございます。

続きまして、次のページに行きまして、伊野商業高校でございます。伊野商業高校は、地域との連携に力を入れておりました、仁淀ブルーProject といった課題研究を実施しております。

企業と連携したキャリア教育を、毎年継続して実施しております、2 年次には 4 日間のインターンシップを全員が実施しております。

続きまして、高岡高校の全日制は、生徒の多様なニーズに対応するよう、平成 29 年度から単位制に改編し、2 学期制の導入や、学び直しのための学校設定科目を設けています。

平成 28 年度は 2 人が国公立大学に合格し、県内就職率は 100%になります。

定時制につきましても、3 年間で卒業できる三修制を導入し、また県内就職率は 100%でございます。

続きまして、高知海洋高校は、食品・航海・機関のコース別のインター

	<p>ンシップや、土佐海援丸の航海実習などを通じて、できることが実感できる授業づくりに取り組んでおります。</p> <p>普通教科の学習面では、学習支援員による支援や放課後ノートの活用により、基礎学力の定着を図っております。</p> <p>続きまして、資料7をご覧ください。資料3にございました、地域別中学校卒業生数の推移の内訳を、市町村ごと、合併する前の旧市町村ごとに出したものです。私立高等学校などに行く生徒を除いた数字となっておりますので、現在の中学生の人数とは、必ずしも一致しておりません。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。</p>
田村教育長	<p>ただいまの説明に、ご意見、ご質問ございましたらお願いします。よろしいですか。</p>
各委員	<p>はい。</p>
田村教育長	<p>それでは、特にないようでございますので、地域から代表で来ていただいた方々からの意見聴取を行いたいと思います。</p>

○地域からの意見聴取

ア 本山町・土佐町

田村教育長	<p>まず最初に、本山町、土佐町からご意見をお願いしたいと思います。両教育長様、お二人をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
土佐町教育長	<p>本日はよろしくお願いいたします。</p>
本山町教育長	<p>よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは座って説明をさせていただきます。</p> <p>「嶺北高校と地域の繋がり」ということで、説明をさせていただきます。2町の説明ということで、少し時間をオーバーするかもしれませんが、なるべく時間内に終わるように、努力をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>嶺北高校がより魅力的な学校となるように、本山町、土佐町、嶺北地域が一丸となって、今後も地域とともにある学校づくりに取り組んでまいります。</p> <p>そのため、目次1のカヌー一部に関する地域連携を本山町から。目次2の地域の連携、目次3の魅力化プロジェクトを、土佐町から説明させていただきます。</p> <p>嶺北高校は、嶺北4町村の宝です。逆らえない少子高齢化の波のなかで、生徒数の減少も免れず、高校は次第に活力を失っていきました。地域が高校を失った場合、当該生徒だけでなく、その保護者や家族が地域外へ流出してしまい、地域の存続が危機的な状況になります。その強い危機感を持って、地元の有志を中心に手を取り合って、嶺北高校の活性化を促す活動</p>

を行ってきました。

移住促進策などが功を奏し、地域内外の人材と知恵が次第に集積し、年少人口の純増を伴うなかで、地域そのものを教育で活性化していけないだろうか、との思いに至りました。

そのなかで嶺北高校を、生徒が行きたい、保護者が行かせたい、地域が活かしたいと思える学校へと育てていこうという、確固たる思いを持ちました。嶺北出身の生徒の進学率の向上と、嶺北外の生徒の日本全国からの入学を成し遂げる、魅力の開発、開拓を試みております。

その一つが、嶺北カヌープロジェクトに伴う、嶺北高校カヌー部の強化であります。嶺北の豊かな水資源を存分に活用し、日本一のカヌー練習環境及び指導体制を整えることに、すでに着手をしております。

本年の愛媛国体のカヌー競技会場が、開催地の愛媛でなく、本山町、土佐町の両町を流れる吉野川、本山町寺家地区に設定されたように、本山町、土佐町は、全国屈指のカヌー環境であります。

本年9月のカヌー国体では、カヌーが縁で本山町に嫁いで来られた女性が、見事タイムレースにおいて、第2位の成績を収めました。その吉野川で安定して練習できる環境が、すでにあります。

また、土佐町、本山町にまたがる早明浦ダムは、バスフィッシングや、その他のウォータースポーツでの活用がすでに成されています。早明浦ダム湖のカヌーでの利用を見据えて行った、日本カヌー連盟の専務理事である、古谷利彦（ふるやとしひこ）氏による視察では、山に囲まれて、風が少ないため波が立たず、2 km以上の長距離を漕げる、日本屈指のカヌー環境であるという評価をいただきました。

これまで、早明浦ダム湖の湖面利用は、幾つかの目的に限られておりましたが、カヌーのまち嶺北推進協議会を設立し、湖面利用規則の改定を行い、本年からカヌーの練習場としての使用が可能となりました。カヌーによる使用をより推進していくために、カヌーを格納する艇庫や、練習用のレーンの整備を、今後行ってまいります。

カヌー環境の整備とともに、指導環境の整備も行っております。日本カヌー連盟を通じて紹介いただいた、ラヨシュ・ジョコシュ氏を、嶺北高校カヌー部の外部指導者として招へいしました。

ジョコシュ氏は、2016年末まで、隣国韓国のカヌーナショナルチームのコーチを務めていたハンガリー出身のカヌー選手です。2006年の世界選手権のチャンピオンであるジョコシュ氏は、国内大会で優勝12回など、輝かしい成績を誇っており、カヌーの強豪国であるハンガリーでも、非常に人気のある選手です。カヌー指導の実績もあり、すばらしい結果を残しています。

ジョコシュ氏も、早明浦ダムのカヌー環境としての可能性に、大きな魅力を感じており、母国ハンガリーから家族を呼び寄せて、嶺北地域に在住しています。英語が堪能なスタッフが関わることで、カヌー部の学生、地元の小中学生とも交流をしながら、カヌー、そして早明浦ダムの魅力を、地域内外に伝えてくれていっております。

元世界チャンピオンが外部指導者として、高校に指導に当たることは前例がなく、非常に魅力的な要素となっています。

また、指導をさらに効果的にするために、カヌーの現役選手であり、カ

ノーインストラクターでもある佐田野（さだの）氏も招へいし、ラヨシュ氏のアシスタントとして、高校カヌー一部の指導サポートに入ってもらっています。

高校魅力化の代名詞ともいわれる、島根県海士町にある隠岐島前高校は、魅力的な教育プログラムを実践し、島留学を通じた県外生徒の受け入れにより、生徒数がV字回復をしております。

嶺北高校でも、カヌーを切り口として県外生徒の受け入れを開始し、後ほど土佐町の方から説明される、嶺北高校「魅力化プロジェクト」を推進していければと考えております。

隠岐島前高校の島親制度に習い、県外生徒を受け入れてくれる、地元住民の開拓を開始しています。

第一に、カヌーの楽しみを通して地域の魅力を知る。第二に、カヌーを通して切磋琢磨するなかで、生徒各自が自己実現をしていく。それを可能にする体制が着々と整っています。生徒が行きたい、保護者が行かせたい、地域が活かしたい学校への、第一ステップがカヌーを通じた活性化です。

嶺北カヌープロジェクトの目指すところは、3つあります。一つは、嶺北を日本有数のカヌー競技強化拠点地域とすること。続いて、嶺北高校を日本唯一のカヌー指導校とすること。最後に、嶺北を競技カヌーのメッカとすることです。

一つ目の、嶺北を日本有数のカヌー競技強化拠点地域とすることで、全国、全世界から、カヌー競技の合宿を誘致することができます。異なる地域、異なる国から多くの人々が交流することによって、高知県の中山間地域においても、学生、地元住民が、様々な文化や考え方に触れることができます。

そして、その交流を通して、地元の魅力を再確認することができ、地域を愛する住民性が育まれると考えています。地元住民間、地元学生間では、地元にいるからこそ、なかなか伝えることができないことが多い、地域外の見方、考え方に触れるなかで、にじみ出てくる地域愛に気付くきっかけを、カヌープロジェクトを入り口として、人材交流で成し遂げられると考えています。

2つ目は、先ほど述べました嶺北高校カヌー一部の練習、指導環境を整えることにより、嶺北高校を日本唯一のカヌー指導校とすることを目指します。

地域には、嶺北はこのスポーツという目玉がなく、地元が地域一丸となって支える、核となるものがありません。カヌーをその核とし、嶺北が地域一丸となって、嶺北高校を応援する環境を整えます。

嶺北高校はすでに、カヌー部門で強化指定校に指定されております。ジョコシュ氏の指導により、さらに選手の能力は飛躍的に伸び始めており、県大会、国体などで自己新記録など結果を出し、かつて全国大会にも出場した嶺北高校カヌー一部が、再び脚光を浴びることは間違いないでしょう。

3つ目は、嶺北を競技カヌーのメッカとしていきます。その最初の段階として、地元の人々の生涯スポーツとしてのカヌーを推進していきます。現在、吉野川や早明浦ダムを使って、カヌー教室を展開しております。小中学生、一般向けのカヌー教室を通して、カヌーへの関心を高めていきます。

また、日本のナショナルジュニアチームの強化委員でもあるジョコシュ氏は、母国ハンガリーにある、カヌーアカデミーというカヌーの専門施設を、日本カヌー連盟と共同して設立し、ハンガリー式のカヌートレーニング方法を用いて、早明浦ダムをカヌー選手の強化拠点としようとしています。

このような取組のなかで、カヌーを地域の文化として、位置付けられるようにすることが理想です。そのなかで環境も整い、カヌーを軸としたスポーツツーリズムを見据えています。

本山町に整備されるモンベルビレッジは、アウトドアスポーツの一大拠点となります。官民によるカヌーをはじめ、アウトドアスポーツ、文化の推進の体制が整っているのも嶺北ならではの、ではないでしょうか。

高知県の文化芸術とスポーツの振興では、競技力の向上、生涯スポーツの推進、スポーツを通じた産業振興の一体的な推進を掲げております。

特に産業振興では、7月に本山町で行われた、アウトドア構想による地域振興と題したシンポジウムの際に、尾崎高知県知事からカヌーをはじめとしたアウトドア構想について、称賛の言葉もいただきました。

嶺北カヌープロジェクトは、以上の3点、競技力の向上、生涯スポーツの推進、スポーツを通じた産業振興の、一体的な推進を十分に満たし、県のビジョンを推進していく一助となると考えます。

それはメディアの注目度からも読み取れます。嶺北高校を中心としたカヌープロジェクトは、高知新聞、テレビ高知、高知放送、高知さんさんテレビ、NHKなど、すでに多くのメディアで取り上げられています。

つい最近では、NHKが、存続の厳しい中山間地域の高校において、全国でも非常にユニークな取組として嶺北高校を紹介したい、と取材に来られました。春に放送予定のその番組は、高知県内だけでなく、全国でも放送される予定です。

その意味で嶺北高校は、高知県の教育における取組の、一つの目玉になる可能性さえあるのではないのでしょうか。

しかし、嶺北高校の魅力は、カヌー一部だけではございません。カヌー以外の地域との連携などの説明について、土佐町にバトンを渡したいと思えます。

土佐町
教育長

それでは、私の方から、嶺北高校と地域の連携、「魅力化プロジェクト」発進という、この2点につきまして、説明をさせていただきます。

嶺北地域は、嶺北高校とのつながりを大切にしています。嶺北高校生は、地域資源を学びのフィールドとしており、嶺北高校はヒトづくりと地域づくりの拠点であります。

高校生たちは地域課題を解決するため、様々な自主活動をしており、先生方はそのサポートをしてくださっているところでございます。

地域の防災の啓発を行う嶺北フリーゲルズや、環境保全活動をしている嶺北エコフリーゲルズ。また、地域産業を活用した商品を企画・開発し、販売活動も実際に行う嶺北ユースネイバーズ。災害への対応の啓発を行っている嶺北ガーディアンエンジェルズ。また、郷土を大切に思う心を育む、嶺北歴史探究会も行いました。

この自主活動において、地域課題を解決する過程で、地域を大切にする

心を育むと同時に、課題発見力や問題解決力が鍛えられる環境が、高校には揃っています。

このように、自主的に地域づくりに関わることで自分が学びになっており、それがヒトづくりになっています。こうして、郷土心が育まれた高校生たちがまた、地域づくりに貢献していくサイクルが出来上がっており、問題解決学習、プロブレムベースドラーニング（Problem Based Learning）となっています。

問題解決学習は、知識の暗記にみられる受動的な学びを脱却し、自ら問題を発見・解決していく能力を育む、本質的学習といわれております。このような問題解決型自主活動は、高校生たちの学びになると同時に、地域にとって欠かせない存在となっています。

また、地域の主要産業である、農業について学習する機会を設けています。天敵農法を行っている農家さんや、ブランド米「土佐天空の郷」を育てている農家を訪問することで、地域を尊重する気持ちが育まれています。

さて、嶺北高校が行っている、地域を愛し尊重する心が育まれる問題解決学習の事例を紹介させていただきます。

一つ目は、肉みそ「おいしし」です。農業コースの生徒たちが、地域の特産品である土佐赤牛に着目し、JA 土佐れいほくや高知ファイティングドックスと協議を重ねて、高知球場で販売する新しい商品を開発いたしました。

土佐赤牛ではないのですがけれども、嶺北産のイノシシやユズを使い、味付けにこだわり、愛される肉みそとなっており、道の駅土佐さめうら、JAの店舗であるAコープとさなどで販売をしております。

また、肉みそのおにぎりを200個作り、高知球場で生徒自ら販売活動を行い、商品を売り込み、完売をいたしました。購入した来場者の皆様からは、ご飯に合うとご好評いただいております。高知球場の新商品を開発しただけではなく、嶺北の特産品の売り出しにも成功し、好評を得たことで、高校生たちの自己肯定感が育まれていることを、感じたところでございます。

この商品開発のために、JA 土佐れいほくは、地域として協力を惜しまなかったと聞いておるところでございます。

2つ目は、万次郎カボチャでございます。高知の山だけで採れる万次郎カボチャは、1個の個体重さの平均は3kgほどありまして、糖度も平均20度以上ある、大きくておいしいカボチャです。この万次郎カボチャの魅力を世界に広めようと、嶺北山のとっぺん企画と称しまして、カボチャを育て、企業とコラボした商品開発を進めております。

先ほど紹介した、嶺北ユースネイバーズは、シューマイ、小籠包、カステラ風パンプキンを考案し、嶺北ガーディアンエンジェルスは、防災、地域の安全という観点から、非常食「嶺ホコット」を考案しました。

嶺ホコットは、万次郎カボチャだけではなく、ジャガイモ、サツマイモを使用した災害用非常食となっており、2017年度高知県高校生津波サミットに参加した経験を生かして、防災について研究し、地域や日本、世界の方々に関心を持っていただけるよう、商品開発を行っています。

嶺北は津波の心配がない地域ですが、万一そのような事態が発生した際に、山からできる支援は何かという観点から、地域貢献を考えて、できた商品でございます。

このカボチャの育成は、標高 950mの地域で行っておりますが、地域企業ファーマーズれいほくさんと、高校生たちのコラボレーションによって、販売に結び付けようと、引き続き研究を進めているところでございます。

3つ目は、嶺北高校生レストランです。2017年2月に行われた、高校対抗！第3回高知家の牛乳料理コンクールにおいて最優秀を受賞した、「コロッケ風春巻きのレタス包み」を、本山町のレストラン四季菜館さんで、地域住民に振る舞いました。限定70食でございましたが、あっという間に完売をし、嶺北高校が地域住民に愛される学校であると、ということが分かるエピソードでございました。

高校生たちも、このような機会を通じて、地域への誇りを取り戻すと同時に、嶺北という地域を尊重する教育を高校で行っていただいていることを、地域の住民はうれしく思っているところでございます。

続きまして、「魅力化プロジェクト」発信、ということでございます。嶺北地域は、地域の資源を最大限に活かし、教育を魅力化することで、嶺北高校を全国から生徒が集まる魅力のある高校にするため、魅力化プロジェクトを今後、推進をしていきます。

この魅力化プロジェクトは、先ほど、本山の教育長からも話が出ましたけれども、隠岐の島にある島根県立隠岐島前高校が始めたプロジェクトです。隠岐島前地域は、本州から北へ60km、フェリーで3時間かかる非常に便の悪い所にあります。島唯一の高校は、統廃合の危機にひんしていました。

しかし、高校がなくなれば島の子どもたちは、中学校卒業とともに島を離れなければならなくなり、島から若者がいなくなるだけではなく、島外の高校に通うと、収入等により家計は圧迫され、経済的な理由から家族ぐるみの人口流出が起こり、高校の存続は地域の存続と直結する問題であり、つまり子どもたちの進学の問題は、同時に人口流出の雪崩的な減少につながる、一大事ではあったということです。

そこで、この危機を乗り越えるために、平成20年度に、高校魅力化プロジェクトを隠岐島前ではスタートさせ、そのコンセプトは、島全体が丸ごと未来をつくる学校と捉え、地域に学び、地域で支え、地域に根ざした島の学校として、高校を魅力化して、全国から意欲ある生徒を募集する、島留学という制度を創設し、平成25年度には離島、中山間地域の高校としては、異例の学級増が認められ、2クラス化が実現をしたところでございます。

嶺北高校も、島根県隠岐島前高校を見習い、本山町長、土佐町長、学校長が基会となる「高校魅力化の会」を近日中に発足をすることとしております。

また魅力化プロジェクトは、学校支援地域本部、PTA、地域住民、嶺北高校振興会などが一体となり、推進をしていきます。

隠岐島前高校同様、地域に学び、地域で支え、地域に根ざした学校として、高校をますます魅力化し、全国から意欲ある生徒を募集し、10年後の入学者が50名以上となることを目指していきたいというふうに考えております。

現在、先行して進めているのは、カヌーの取組による生徒募集でございます。先ほど、本山の教育長からお話があったとおり、早明浦ダムは、山

に囲まれ波が立たず、カヌーの練習環境として秀でており、この地域資源を活かし、練習環境を整えてまいります。

嶺北高校カヌー部は、県の強化指定クラブとなっており、3年で全国レベルの強豪校として認められるよう、部活動を地域は支援をしていきたいと考えております。恵まれたカヌーの練習環境、部活動、外部指導員のラヨシュ氏の存在を全国に訴えて生徒を募集し、練習や生活に支障ない受け入れ態勢を整えてまいります。

さらに、先ほど自然、地域資源を活かした商品開発力を持つ、農業コース、そして商業コース、自主活動のすばらしさを全国に伝え、生徒募集につなげていきたいと考えております。

中山間地域である嶺北地域は、取り組むべき課題がたくさんありますが、それを学習資源と捉え、問題解決型の学習を行うことで、問題発見力、課題解決力ある子どもたちを育成してまいります。第一産業の担い手不足、少子高齢化、人口減少など、多くの自治体はたくさんの課題を抱えています。

このような答えのない問いは、日本全国どこにでもあり、その問いのない答えや、地域の問題を解決できる人材を育成し、日本の未来をつくる学びの拠点として、嶺北高校の魅力を訴えてまいりたいと考えております。

そして、基礎学力の向上も同様に大切にしていきます。AO入試や、記述式の大学入試は今後増えてきますが、基礎学力も重要であることは間違いありません。むしろ答えのない問いに挑戦する人材こそ、答えがある問いは、解けるようになっておかなければいけないとも言えると思います。

そのためには、基礎学力もおろそかにすることなく、子どもたちの将来の夢が叶う、進学や就職の実現に、魅力化の会は取り組んでまいりたいというふうに思っています。

このように、カヌー部、自主活動、進学、就職といった魅力を、インターネットを通じて全国に知れ渡るように、フェイスブックページを活用してまいりたいというふうに思っています。フェイスブックを運用している公立学校はまだ珍しく、新しいことに挑戦している学校として、内外に認知が広がっております。

今年の10月に開設をいたしまして、「学校支援地域本部」で運用しておりますが、常に500いいね！を集めており、広く嶺北高校の魅力を伝えていきます。フェイスブックによる広報は、ウェブサイトのようなプル型ではなく、プッシュ型も訴求力があり、世間に広く認知されるのは、ご承知のとおりでございます。

今まで嶺北高校のことを知らなかった方の目に留まる機会が増えるだけでなく、卒業生や地域住民など、嶺北高校を愛する方々をファンとして取り込んでいく先進事例として、ICTを活用してまいりたいと考えております。

終わりになりますけれども、今までの教育の標準度は、人口増が、社会においては、どんな地域においてでも均質な学びを受けられるということで、非常に価値の高いものでございました。しかし、それにより都会への人口一極集中が起こり、地域の誇りが失われ、過疎化が進む地域も少なくありません。

これからは、教育の魅力化をすることで地域の誇りを取り戻し、地域の

	<p>担い手、日本の課題を解決する人材を育成することで、嶺北高校が地域づくりの拠点となっていくように、学校とともに嶺北地域は、まい進をしていく所存でございます。</p>
<p>田村教育長</p>	<p>どうもありがとうございました。嶺北高校を地域の拠点校として、カヌーを一つ核とした学校の活性化。それから地域との連携、そういったことも含めて、魅力化プロジェクトに取り組んでおられるということだったと思います。</p> <p>今のご説明に対して、ご意見、ご質問ございましたらお願いします。</p>
<p>八田委員</p>	<p>どうもありがとうございました。地域の皆さんが、本当に嶺北高校を愛していただいているというのが、大変よく分かりました。</p> <p>カヌーというのが、非常にすばらしい切り口かなと。これも、地域をあげて支援していただきながら、嶺北高校でも頑張っていけると、すごくいいなと思いました。</p> <p>それで、少し気になることは、カヌーという競技が、まだまだそれほどメジャーではない。そうすると、仮に全国から集めたところで、本当にここまで来てカヌーをしようという競技人口を、なかなかまだ稼げないと思います。</p> <p>そこで逆に、高知県内からもう少し、嶺北高校でカヌーをしたいという中学生を集めることができないかと考えると、そもそも中学生がカヌーの体験なんてしてないわけですよ。そうすると、何かカヌーを遊び半分で体験できるような機会が、嶺北だけではなくて、県内のいろんな中学生が気楽に体験できるような企画があると、そういう所で体験した子が、逆に嶺北に行きたいということが起こってくるのかなと。</p> <p>もうあと10年ぐらい先ですか、トンネルができると、高知市内へのアクセスが非常によくなりますが、うまくすれば逆に、高知から嶺北にカヌーをしに来る子も、出てくる可能性はありますね。</p> <p>ただそのためには、ぜひカヌーをやりたいと中学生に思わせなければいけないということだと思うんですけど。そういう企画をするのも、まず一つなんです。</p> <p>それともう一つは、ガチガチにスポーツのカヌーっていわれると、そういう体験があっても、やっぱりなかなか入って行けないので、もう少し広く、遊びとしてのハードルの低いカヌーっていうものを、この地域でつukれないかなと。</p> <p>それは、むしろ大人たちがたくさん遊んでいるっていうカヌー。そういうものがあって、県内で、夏はあそこでカヌーをしたら涼しくていいねという、一つのレジャー的なものになって、ハードルが下がって、常にたくさんの方がカヌーをやっているっていうものになっていくと、中学生ももっと入って来やすいのかなと。そんなことを感じました。ぜひ、カヌーを成功させてください。</p> <p>もう一点は、カヌーだけではちょっと寂しくて、もう一つぐらい、コアになる運動部が欲しいなと思いました。それを考えようとする、今の連携してる中学校の嶺北中と土佐町中ですか、ここで今、盛んな部活動は一体なんであって、それをなんとか、嶺北高校でも引き続いて維持できない</p>

<p>土佐町 教育長</p>	<p>かっていうのが、もう一つ柱として欲しいなと感じたんですけども。中学校の部活動の状況が、もし分かれば教えていただけますか。</p> <p>1点目のカヌーについてのご指摘、非常にありがたいご指摘です。そういう連携、本山町さんが、モンベルの方を誘致といいますか、来ていただけることになっているので、広く一般の人たちに対するカヌーの認知度の向上というのがあるのかなという。</p> <p>それと、県内での動きですけれども、嶺北高校とほかの高校のカヌー一部との行き来は、従前からあったのですけれども、先ほどのラヨシュ氏が外部指導者として、他の高校にも指導に行っているという状況もありますので、徐々に広げていきたい。</p> <p>それと、地域のスポーツクラブと連携をして、ジュニアチームといいますか、小学生からカヌーに親しめるような場もつくっていききたいというふうに思っているので、モンベルさんと連携をしながら、そういう広がりを持っていききたいなというふうに思っているところです。</p> <p>それから、中学校の部活動の状況ですけれども、これは非常に残念なことなんですけれども、嶺北地域は、昔からソフトボールが盛んでございました。そこで、土佐町中学校に途中から野球部ができたんです。土佐町は野球部、本山町はソフト部というふうに今はなっていて、ちょっとそこでばらけています。嶺北高校には、ソフト部があったのですけれども、そこがちょっと今、活動ができなくなっている状況があります。</p> <p>今一つ大きな課題としては、子どもたちが嶺北高校で球技系のスポーツができないというので、若干外へ流れているかなというのがあるので、ここを少しどうしていこうかなと思っています。</p> <p>同じ嶺北地域の大豊町さんもソフトボールなので、そこら辺を少し、整理をしていく必要があるのかなと。ただし、保護者の意識もなかなか難しいところがあって、そこが昔から課題となっております。</p> <p>あと、剣道もあるのですけれども、剣道も非常に嶺北地域で盛んですけれども、やはり少なくなっていて、嶺北高校自体の団体戦が、なかなか難しいような状況にもなっているので、そこも少し課題かなと。</p> <p>現状では、大きくは剣道、それから野球・ソフトボール系ですけれども、なかなかそれが、揃わなくなってきているというのが課題です。ご指摘のとおり、新たな部活動というか、それは大事かなと思っています。</p> <p>今考えているのは、一つの部活に集中するのではなくて、多彩なスポーツができるような部活動も、高等学校としては有りなのかなと。週のうち2日は剣道、2日はソフトボールというようなことができると、一つのスポーツに集中するのも非常にいいのですけれども、多彩なスポーツをすることによって、心と体の成長もあるのではないかなと、いうふうに考えているところもございます。今、そういうことも少し考えながら、計画をしていくところでございます。</p>
<p>八田委員</p>	<p>分かりました。アイデアとしては、結構おもしろいなと。あまり一個に集中し過ぎずに、いろんな幾つかのスポーツを組み合わせるっていうのは、有りかなという気がします。</p> <p>ぜひそれを2つの町と高校で相談していただいて、戦略的にこういうス</p>

<p>本山町 教育長</p>	<p>ポーツをやらせよう。それで連携することで、それをきっかけに、ぜひ嶺北高校に進学してもらおう。ぜひ考えていただければと思います。</p> <p>カヌーの取組のことで、少しお話をさせていただきます。</p> <p>本山町は、高知国体の時にカヌー会場を設置して、常設のカヌー艇庫も用意をしております。そこには、シャワールーム等も用意をしており、そういう設備を構えている環境であるため、香川県、それから高知市内の方の小中学生も、年に数校、本山町にカヌーを楽しみに来ております。</p> <p>吉野川という川があるんですけども、その支流の汗見川という川が、流れが穏やかで、本当に初心者の方も安心して、十分楽しめる川があります。</p> <p>そのため、小中学生たちが積極的に当町を訪れて、カヌーで親しみを持ってくれております。またそういう環境があります。</p> <p>それから、先ほど土佐町の教育長も言いましたけれども、嶺北中学校もソフトボールが大変盛んです。県の資料にもありますけれども、ここ2年ぐらい嶺北高校への進学率がちょっと落ちているのは、嶺北中学校ソフトボール部が大変強くて、その時に主力で頑張っていた子どもたちが、地元の嶺北高校ではソフトボール部員が減ってきていたために、ソフトボールを続けてできないのではとの思いから、高知農業高校、高知工業高校、岡豊高校に行って、そこで本当に頑張っていて主軸をやっているという状況になっていることも一因です。</p> <p>本山町では、小学校から盛んにソフトボールを楽しんでいますので、小学校、中学校、高校と地元で続けていければと考えています。</p>
<p>木村委員</p>	<p>私は、もう何度も本山の方へ遊びに行って、泊まっています。私の友人なんかも、高知で働いていた若者が地元へ帰って、地元で何かをしたいというような人も随分増えてきています。若い人が随分、活性化しているんじゃないかというような感じはしています。</p> <p>先ほどご説明があった、この魅力化プロジェクト、隠岐の島の村長さん、町長さんが、圧倒的なリーダーシップでやられているわけですね。</p> <p>そういった意味では、嶺北は4町村のそれぞれの行政のトップの皆さん方が、どれだけ本当の意味で、このプロジェクトに熱意を持ってできるかというのが、一つのキーだと思うんですが、そういった観点で、嶺北高校に対する支援策ということでは、こういうプロジェクトは本当に素晴らしいし、よくやられているなと思うんですが、具体的な支援というのが、こんなことをしているというのがありましたら、ぜひおっしゃっていただきたい。</p> <p>それともう一つは、せっかくあるスポーツの名前がちょっと分からないんですけども、塀をこう登るやつですが、何ですか。</p>
<p>土佐町 教育長</p>	<p>ボルダリングです。</p>
<p>木村委員</p>	<p>あんな素晴らしい施設があるので、また競技人口も少なく、本当にオリンピック選手が出せるくらいの、全国的にもそれほど普及してないスポーツだと思うので、うまくあれを活かす方法も、ぜひ、お考えになった</p>

<p>土佐町 教育長</p>	<p>らどうかと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>2つ目のボルダリングなんですけれども、高知国体の時に本山町さんが整備をして、非常に立派なボルダリングの施設があるので、あれをぜひ活用したいなというふうには考えています。</p> <p>緑地、非常にアウトドアというか、自然が豊かですので、アウトドアを資源としたスポーツっていうのも、しっかりと見据えて考えていきたいです。</p> <p>一つはカヌーなんですけれども、先ほどの登山もしかりですし、自転車もしかりですし、いろんなものがあると思うので、そのなかから、磨き上げをしていく必要があるのかなというふうに考えておりました、そこは、モンベルさんとかとも一緒に協働しながら、進んでいきたいというふうに考えております。</p> <p>それと、支援策でございますけれども、嶺北高校は、嶺北は4町村ございますが、いろんな地理的条件等から、土佐町と本山町のお子さんたちが通う率が非常に多い状況ですので、その2町が今メインで、まず最初に始めることとしています。</p> <p>最終的には4町村の嶺北地域の高等学校ということで、4町村で協働して進めていくということなんですけれども、今のところ、土佐町、本山町。特に、土佐町の方が少し先行しておりました、本年度、平成29年度から人材も投入しております。教育系のNPO法人が設立されたわけなんですけれども、そのメンバー2人が「地域連携協働本部事業」という県教育委員会の生涯学習課の事業を活用していただいて、コーディネーターとして、2人配置をしております。</p> <p>その2人は何をしているかという、先ほど申し上げたフェイスブック等もそうですし、岡豊高校との遠隔授業のサポート。一人は隠岐島前から移住して来られた方なんですけど、ICTに関して非常に長けておる方なので、そういった形で、両高等学校の支援をさせていただいています。それから、もう一人は英語に非常に堪能な方なので、英語の授業の若干のサポート等もさせていただいているということです。</p> <p>今、2人が入りながら、嶺北高校の先生方と協働しながら、先ほどの地域課題を解決するために、いろんなサポートをさせていただいているということです。</p> <p>本格的に動き始めたのが今年の9月以降なので、まだこれからかなというふうに思いますが、徐々にそういう形でスタートしていますし、先ほど申し上げました、本山町長、土佐町長、それから学校長の組織を立ち上げますので、来年度以降、もう少し積極的なアプローチをしていきたいと思っております。</p> <p>また、地域課題解決だけではなく、やはり学力をあげていきたいというふうに思っているので、われわれ地教委の担当である義務教育から、高校への流れをしっかりとつくるための学力を、そして高等学校での学力保障を高等学校の先生方と一緒に、地域で何ができるかということも、考えていきたいなというふうに思っております。</p> <p>まだ始まったばかりでございますが、従前から非常に子どもたちの自主</p>
--------------------	---

<p>本山町 教育長</p>	<p>活動が盛んな地域でありましたので、そこをしっかりと、伸ばしてあげられるようなサポートをしていきたいと思えます。</p> <p>まずは、人的支援を本年度から始めていますということです。学校と相談しながら、学校が本当に地域に求めていることを支援していくというような支援が始まったという状況でございます。</p> <p>お答えをさせていただきます。本山町にあるクライミング施設ですけれども、あれは高知国体の時に本山町が設置をしております。</p> <p>先ほど、土佐町の教育長も少し触れましたけれども、やっぱり壁に登っていく時は、安全対策も大変重要でありまして、その指導者の育成というのが、ちょっと今、ネックにもなっております。</p> <p>その関係で、本山町は今度、モンベルビレッジができますので、その時は、モンベルの方に、指定管理者制度等を利用して、施設の運営等を任せたいと考えております。</p> <p>それから、本山町、土佐町からの、嶺北高校生への具体的な支援としては、小額ですけれども、現在行っているのは、大豊町、大川村から、嶺北高校へ通学してくる生徒に対して、通学補助を両町で実施しております。それから、1年生から3年生の共通の教科書の購入補助も実施しております。</p>
<p>中橋委員</p>	<p>新しい発想のもとで、新しい取組をされているということで、私なんかでもマスコミとかを通じて、よく最近、嶺北地域のことを聴きますが、一方で、やはり嶺北高校の定員割れが、例年続いているという現状があると思えます。</p> <p>あと、嶺北中学校と嶺北高校で連携型中高一貫教育を実施されているにもかかわらず、その嶺北中学校からの進学者というのが、ここ最近また落ちている。高い時でも、やっぱり全員は行ってない、6割ぐらいですね。</p> <p>そういう現状を見た時に、先ほど、ソフトボールでの流出というお話もありましたけれども、何が原因だと捉えられているのか。中高一貫教育というシステムが、うまく機能しているのか、していないのか。その辺りも教えていただけますでしょうか。</p>
<p>土佐町 教育長</p>	<p>中高連携は、嶺北中学校もそうですけれども、私の所の土佐町中学校も一緒に連携はしています。中高連携が始まってから、もう15年以上経っているわけですけれども、できた当初は、やはり嶺北高校の魅力化、その当時の魅力化という考え方で、存続をしてもらいたいという形から始まって、非常に成果があがっていた時もあります。</p> <p>ただ、今やはりご指摘のとおり、少し中高連携が弱いかなというのは、実感としてございます。</p> <p>それと、嶺北高校への進学者がなぜ少ないかということですが、やはり、義務教育も土佐町、本山町、小中学校の部分で、非常に学力の向上が実現しているところがあって、学力が向上すると、やはり高知市内の普通科の進学系の高校、高知追手前高校、高知西高校、高知小津高校あたりに進まれるお子さんが、非常に多くなっているのが現実かなというように思っております。</p> <p>やはり、子どもたちが行きたくなるような学校になってないんだろ</p>

	<p>と。これは、校長先生も私どもと一緒に、言いにくいんですけども、やはりそこを追及していくのが大事だろうと思っております。例えば、テストの点の学力だけではない学力を、嶺北高校でどういうふうに培っていくかということ、模索をしていくなど。そこで、先ほど申し上げました、地域の課題解決能力というところなのかなと思っております。</p> <p>隠岐島前高校へは、私も二度ほど行きましたけれども、やはりあの高校は、そういう力を伸ばしていくことで、違った意味で進学、進路保障をしていくということを実現しているのです、そこを嶺北高校も少し見習っていききたい。</p> <p>やはり、一つ目はカヌーとアウトドアということですけども、やはり第一次産業、嶺北地域の基盤産業である第一次産業を生かした、地域づくりのための高等学校ということを目指していきたいなと思っております。</p> <p>嶺北高校は、学力もあげながら、うまくやらないといけないのですが、そこがなかなか難しいなというのは、実感としては感じています。</p>
竹島委員	<p>私は、くろしおキッズという高知県でオリンピックを輩出しようという事業にも関わっているんですけども、その中で、やはりカヌーについて、国体とかの点数も団体の方がいいんですけども、マイナーな面を強化していこうということで、今、小学生も少しカヌーをやっているところです。</p> <p>それを、まちを通じて、今お二人がおっしゃられたように、大人がまず入って来て、それが続いて、その子どもさんたちがカヌーを続けてくれて、それでまちおこしみたいな感じになっていくのが一番理想かなと思います。</p> <p>あと、数値で、中学校の卒業者数の推移という所がありますけれども、そんなに土佐町にしても、本山町にしても、激減するっていう数字は出ていませんね。</p> <p>だから、やはり、これからは地元の中高連携、あとそれプラス県外からも生徒を呼んでいただきたい。また、高知県でカヌーに興味のある方を呼んでいただければ、生徒数はそんなに減らないと私は思っています。</p> <p>ぜひ、カヌー、ボルダリングとか、そういうスポーツも含め、教育は文武両道ですので、まずはそういったまちおこしみたいなことを通して、人数を増やしていただきたいと思えます。</p>
平田委員	<p>私の方から、お二人の教育長さんの想いを聴かせていただきまして、大変、学校籍であった者から見まして、心を打たれました。両教育長さんが、嶺北高校に対して、明確なビジョンを持ってお話をしていただきました。大変すばらしく思いました。</p> <p>これはもう当然のことだと思いますが、高校の存続と地域の活性化というのは、大変関連が大きいと思います。長くは申しませんが、ぜひ、この魅力化の会という、町長さんと学校長と一緒に、嶺北高校をどうしていくかということで、よろしく願いいたします。</p> <p>なんと申しましても、学校は一定の生徒数の確保だと思います。そこで、様々な教育活動を行うことができると思います。その辺りを、大きな視点として、ぜひ嶺北高校の活性化につなげていただきたいというふうに思い</p>

田村教育長	<p>ます。本当に熱い想い、ありがとうございました。</p> <p>それでは、他にもご意見はあるかもしれませんが、時間が大分過ぎましたので、以上とさせていただきます。</p>
-------	---

イ いの町

田村教育長	<p>それでは、続きまして、いの町の池田町長様の方からご説明、ご意見を お願いしたいと思います。</p>
いの町長	<p>こんばんは。大変お待たせいたしまして申し訳ありません。パソコンが 立ち上がり次第、プロジェクターの方に映させていただきたいと思いま すけれども、まずペーパーの方でお願いいたします。</p> <p>本日は、このような機会を頂戴いたしまして、誠にありがとうございます です。それでは、着座で説明させていただきます。</p> <p>まず、いの町には、高知県立伊野商業高等学校と高知追手前高等学校吾 北分校の、2校がございしますが、本日は、特に吾北分校を守り続けていき たいと思い、その必要性について述べさせていただきます。</p> <p>なお、伊野商業高等学校につきましては、RESAS（リーサス：地域経済分 析システム）を活用した地域活性化に対する提案や、枝川公園のイルミネ ーション、まちの風景をデザインしたカレンダーの作成等、あらゆる場で、 町と連携した活動を行ってくださっているところでございます。</p> <p>町としましても、高校生の若い力に触れることに刺激を受け、活性化に 向けて一丸となって努力しなければならないと、考えているところでござ います。</p> <p>資料を1枚めくっていただきまして、ではこれより、高知追手前高等学 校吾北分校について述べさせていただきます。</p> <p>高知追手前高等学校吾北分校は、戦後間もない昭和26年4月に、当時の 地域の方々が、高校教育機関を招致すべく東奔西走し、大変な努力の結果 により、高知追手前高等学校定時制上八川分校が開校され、昭和46年4月 より全日制となり、現在に至っております。</p> <p>同校は開校以来、旧吾北村を中心に多くの子弟を社会に送り出し、現在 も卒業生は、地域社会の中心となって、活躍しているところでございま す。</p> <p>次です。吾北分校の存在意義として、4つの視点に沿って説明させてい ただきます。</p> <p>まず1点目といたしまして、地域に根ざした学校、吾北地域の活性化に 欠かせない、大きな宝であると考えております。</p> <p>同校は、将来、地域社会に貢献できる生徒の育成を目指し、近年特に、 地域と共に歩んでいる感がございます。伝統、文化、防災をはじめ、地域 の様々な活動を地域住民と共に取り組んでおります。</p> <p>グリーンパークほので、毎年実施しております「ほのほの王国もみじ まつり」に向けて、地域の方と一緒に花壇づくりに励んでいたり、毎年8 月には、花火大会を開催しておりますが、吾北分校の生徒さんも一緒にな って、お祭りを盛り上げております。</p> <p>地元企業は、体験学習を通じ、人材確保ができており、そのことによっ</p>

て、地域活性化の大きな力となっているところでございます。将来の地域社会、企業等の担い手としての貢献度は、大変大きなものがあり、最近5年間の地元企業への就職者数は10名と、中山間地域を支える貴重な人材となっております。

次でございます。2点目は、将来に向けたまちづくりの大きなテーマについて、移住・定住の促進ということがございます。

いの町には集落活動センターが2つあり、吾北地区には「集落活動センター柳野」がございます。柳野は、同センターで取り組む前までは、高齢化が進み、人口も減少しておりました。

しかし、地域の皆さんが真剣に地域のことを考え、色々な取組を行った結果、移住者が増え、高齢化率は下がり、子ども・若者の数が増えてきました。実際にお子さんがある移住者からは、保・幼・小・中に加え、高校が近隣にあるのは、大変重要だとお聞きしております。

中山間地域に、新しい人の流れをつくり出し、移住促進を図るため、この流れを一層推し進めようと、官民一体となって努力を進めてまいります。また、そのためには、高等学校の存在は大変意義深いものでございます。

3点目といたしまして、少人数のよさを生かした、一人ひとりを大切にされた学校というところがございます。一人ひとりが主役であり、自分の存在意義を認識することにより、自尊感情が高まり、社会に適應できる人材の育成ができております。

現在、いの町では、教育行政方針により、自尊感情を高める教育を、最重要項目と掲げており、その方向性を、県立高校である吾北分校も実践してくださっております。先生方より、希望の進路に応じた手厚い指導・支援がなされ、ほぼ100%の就職率や、遠隔授業等の活用により、毎年、国公立大学等への進学者もいるところでございます。大変ありがたく思っております。

これらにより、近隣の中学校からも、志願したくなる学校としての存在意義がございました。

4点目に、大地震が予想される今日、内陸部にある吾北分校の存在意義は、大きく発揮されると考えます。東日本大震災の時には、高校生の活躍は、地域の大きな力となりました。高齢化が進むなか、吾北分校の若い力は、一層地域の大きな支えとなります。

こちらは、防災訓練をしているところでございます。具体的には、11月13日に吾北分校で防災訓練を実施した様子です。当日は、約150名が集まりました。このように、地域と分校生徒や地元中学生が、ともに訓練を実施することによって、より防災意識が向上し、防災力も高まりました。

高知市では津波の被害が予想されますが、津波に無縁の内陸部の高校の存在意義を、もう一度見直し、生かすことも重要かと考えます。例えば、津波の被災時には、沿岸部にある学校の代替え施設としても、受け入れができます。

こういったところが、いの町、また地域の方々の、吾北分校存続に対する想いでございます。

次に、いの町の支援策といたしまして、財政的な支援では、吾北分校の生徒さんに対しまして、新入生支援金を、新1年生に10万円を限度に補助し、通学費補助金といたしまして、高知県内の公共交通機関の定期券額を、

平成 27 年度より、2 分の 1 から 3 分の 2 に増額補助しております。

また、奨学資金の貸付も無利子で行っております。

吾北分校協力費及び活動育成補助金として、部活動に補助もさせていただいております。

その他に、特色ある教育というところで、町の ICT の専門職員を派遣し、卒業までにホームページを作成できる力を付け、卒業後には、社会の即戦力となるような取組等も、町と高校が連携して行ってきたところでございます。

こちらは、先日、吾北分校であった文化祭で、演奏した時の様子です。この太鼓部は、学校だけでなく、地域の清流太鼓一番風とともに、地域のイベント等で活躍しております。

いずれも、今後におきまして、補助を継続して実施し、支援してまいりますし、新たな支援につきまして、特色ある学校づくりに向けての方向性や取組が、学校から出た段階で、ともに検討してまいりたいと考えております。

ここからは、地元である吾北中学校から、吾北分校の存続に向けて、生徒数の状況や想いについての資料をいただいておりますので、ご紹介させていただきます。

まず、吾北中学校の生徒が吾北分校を志願する主な理由でございます。

(資料のとおり)

- ・地域活性化のために地域にかかわる活動に積極的に取り組みたい。
- ・将来、地域の一員として地域で活躍したい。
- ・自然豊かな環境の中で静かに学べる学校。
- ・少人数での授業で、手厚く充実した支援が受けられ、将来の夢の実現に向けて最後まで支援してくれる学校。
- ・自宅から無理なく通学ができ、勉強や部活動などの活動にかかる時間が十分取れる。
- ・いの町からの金銭的支援があり、経済的な面において将来の展望が持ちやすい。
- ・将来は、林業関係の仕事につきたいと考えている。将来の就職に向けての体験活動が充実している。
- ・地元との合同行事などを通じて地域に貢献し、地域で活躍できる人材を育成している。

こういうことが、子どもたちの志願した理由でございます。それを要約すると、大きく 3 つのことになります。

吾北分校は、地域貢献のための学校行事をかまえて、体験させている。少人数指導で、一人ひとりにきめ細やかな指導してくれることで、社会的自立のための進路保障が確実になされている。地域貢献と発展のために、活躍できる人材の育成がされている。

この表は、吾北中学校の卒業生の吾北分校への進学者数の推移です。水色の部分が吾北中学校の卒業生で、茶色い点が吾北分校への進学者を表しております。

平成 28 年度の卒業生は、13 人中 10 人が吾北分校に入学しております。多い時で、85% の子どもたちが吾北分校に進学しております。子どもたちが、地域に残って活躍できるとか、過去 18 年の平均値 52% を維持するた

めには、今以上に魅力を感じられる取組が必要であると考えられます。

そこで、地元中学校から分校に期待することとして、少人数指導の魅力や、一人ひとりの進路実現に向けて、きめ細やかで実効性のある、いわゆる社会的自立ができるための資格が取れるような教育課程を編成し、今まで以上に、特色と魅力を発信していただきたい。

遠隔授業の継続も考えてくださっていますので、そういったものも使って、吾北分校に行けば、色々な資格が取れる授業も開設していただきたい。子どもたちが地域に残って、こういう資格を取って、社会的自立をしたいという思いも、さらに強くなるということがございます。

地元中学校との連携を強化し、中学校で高校の先生が授業を持っていただいて、この先生だったら分校で習いたいと、いうふうな雰囲気もつくっていただきたいということ。

自然豊かな地の利を生かし、国体選手も出るような部を開設してみてもどうか、というところも、中学校として期待しているところでございます。

そういったことにより、分校への進学者が増え、地域に貢献のできる人材育成が、今以上に推進できると考えております。

以上が、地元中学校から、吾北分校存続に向けての想いでございます。

なお、皆様のお手元に、吾北中学校の進学動向等についての資料をお配りさせていただいておりますので、ご確認をお願いいたします。

これは中高連携で、分校の水田の稲刈り作業を行っているところでございます。

こちらは、追手前分校生と本校生。

吾北中、本川中、合同チームが一緒になって、運動会をしているところでございます。

「前期実施計画」の策定時には、平成 23 年に、吾北分校存続に対して、いの町の総人口の半数を超える 14,243 名の方々にご署名いただき、県議会にもお願いいたしました。地域、保護者の皆様も、あの時と同じ、地域を愛し、地域に貢献できる生徒の育成に対する、熱い想いが今もなおございます。

まとめになりますが、これまで申し上げてまいりましたように、わが町、いの町に立地する高知追手前高校吾北分校は、様々な活動を通して、地域文化の推進に大きな役割を果たしてくださっております。中山間地域においても、文化・芸能等、本物に触れ、教養を高めるためには、やはり若者が地域にいなければなりません。

私は、高齢者も若者も、共に一体となって学び、教養を高めていけるまちにしたいと考えております。そのためにも、高校という核となる存在が、必要不可欠だと考えているところでございます。

高校生の若い力があってこそ、その姿を中学生が見て育ち、小学生が見て育ち、地域もまた、そこから刺激を受けて活力を得る。そして、地域が高校生の社会性を育てるといような、地域全体の理想的なサイクルが続いていくと考えております。

尾崎知事は、国交省の道路がらみで、採算性だけでは計ってはいけないというお考えのもと、かつて命の道という言葉を使われました。それと同様に、吾北分校は、旧吾北村・本川村の生徒にとっては、命の高校でもあります。

	<p>なぜなら、分校がなくなれば、交通の便の悪い地域に住む生活困窮世帯にとって、通学、下宿にかかる費用は膨大なものであり、なかには高校進学を断念せざるを得ない事態を招くことにもなりかねません。輝く将来を描く子どもさんにとって、生きる希望を失いかねないといった意味でも、命の問題と言えるのではないのでしょうか。</p> <p>また、いの町は、国の山村振興に対する各分野における事業にも、積極的に取り組みたいと考えております。そういう観点から見ても、やはり地域と密接につながる高校があるということで、そういった事業が、おのずと増えてくるのではないかと思います。</p> <p>私は、山間地で暮らすということは、国土を守るということだと認識しております。国が山村振興を図っているなかにおいても、若い力あってこそその国土保全ではないのでしょうか。</p> <p>高知県においても、尾崎知事は、中山間の地域活性化に力を注いでおられ、対話と実行行脚により、ご自身の目で確認され、ご自身の耳でお聴きになり、地域地域の課題解決のために、全力でサポートしてくださっていることは、皆様もご存じのとおりでございます。</p> <p>先に述べました国の山村振興策に併せて、県の中山間地域活性化対策、いずれとも足並みを揃えて、私たちは取り組んでいきたい、また、いかねばならないと強く感じているところでございます。</p> <p>そのためにも地域に人がいる、高校生がいる。そこに顔があり、顔が見え、そして熱い想いが伝わる。そういった地域づくりを、吾北分校を一つの拠点として繰り広げることが求められ、私たちは吾北分校を守り続けていきたいと、強く強く望んでいることを、本日の場をお借りいたしまして、申し述べさせていただきます。</p> <p>最後になりますが、本日はこのような機会を与えていただき、心より感謝申し上げます。</p>
田村教育長	<p>大変ありがとうございました。中山間地域の核としての、吾北分校の大切さと併せて、町の方から大変手厚いご支援をいただいていると、いうようなことのお話をいただきました。</p> <p>それでは、ご意見、ご質問ございましたらお願いします。</p>
八田委員	<p>ありがとうございました。たまたま昨日、県立美術館で、いの町の取組、菊池先生の取組を拝見しまして、まだ感動冷めやらないところです。まちを挙げて、教育を一生懸命やろうという姿勢をすごく感じていて、大変ありがたいなと思っています。</p> <p>ぜひそれは、伊野商業とか吾北分校にも、まちぐるみで教育を活性化して行って、子どもたちが自尊感情を持って、勉強に自分から取り組む。それを巻き込んでいただいて、高校の活性化にも協力していただければと思います。</p> <p>吾北分校はそうは言っても、とにかく生徒数が減っていくというのは、非常に厳しい状況で、いただいた資料の中学生の動向ですが、今後も平成30年がちょっと増えるんですけど、その後、なかなか増える方向に見えていないということがあります。</p> <p>おっしゃったように、吾北の地域を、地域として振興しなければいけな</p>

	<p>いという意味では、②番にあった移住者を増やすことです。移住者を増やすためには、学校が大事なんだということだったんですけども、仮に学校がちゃんと存続したとして、一方で、そこにどういう産業を、これから活性化していったというようなことを、まちでお考えなのか。</p> <p>そのためには、吾北分校で教えるコンテンツってというのが、今のままで本当にいいのか。いや、もう少し違う、こういうところを、まちとしてはやりたいので、こういう分野で活躍できる、こんな教育をしてほしいというようなことが、何か具体的にあるのか、お聞かせいただければと思います。</p> <p>いの町長 現在、町の方で、未来を考える会というものを行っておりまして、それは、本川地域で4カ所、吾北地域で4カ所、もうすでに本年度、行いました。</p> <p>その中で、やはり皆さんの本当に鬼気迫る想いというのが、人口減少、同級生がほしい。それは、小学校、中学校を通してのことです。</p> <p>まず、その産業ということですが、これから起業するにしても、やはり、なかなか起業する新たなものというのが難しいところがあります。</p> <p>そこで地域からご提案いただいたのが、住むのは本川・吾北地域。しかし、本川の隣は、西条市なんです。西条市まで行くのに、30分～40分で行ける所なので、そういった所に仕事を求めて、住むのはこちら、いの町で住むという提案をいただいているところで、これは西条市の方にもご相談申し上げ、早速に求人募集なんかもいただいているところです。</p> <p>もう一つは、今、吾北・本川地域は、超高速ブロードバンドの整備がなされていない所です。そういった所でも、やはり移住・定住促進を図るうえでは、そういった整備をしなければならぬということで、この11月には総務省を訪問しましたが、現在は、いの町が不利な補助条件になっております。</p> <p>それは、いの町は、みなし過疎ですが、財政力指数が0.3を上回っておりますので、補助率が普通だったら2分の1なのが3分の1しか貰えないとか、あと、補助の裏に充てる起債が、そのみなし過疎地域にしか使えないとか、そういった不利な条件があるので、そこら辺を総務省へ要望していく覚悟でございます。</p> <p>そういった条件を整えて、やはりブロードバンドの整備も行っていった、定住を図っていきたいと考えているところです。</p> <p>町としてやりたいことは、もう先ほども申しましたように、やはり国体選手を輩出できるような、クラブ、部活動の創設とか、そういったところで、魅力ある学校づくりをしていきたいと考えているところで、吾北中学校の生徒さんからの提案とかいうことも、十分にいの町として、生かしていけるところは生かしていきたい。私どもがサポートできるところは、精一杯サポートしていきたいと考えているところです。</p>
八田委員	<p>ありがとうございました。特にクラブ活動は、ぜひ吾北中学校と連携して、相談していただいて、少し何か戦略的に絞り込んでやっていただければいいかなと思います。</p>

平田委員	<p>町長さんの本当に吾北分校に対する熱い想いをお伝えいただきまして、ありがとうございました。</p> <p>今日、吾北分校にも寄らせていただいておりますけど、事前に校長さんから、いの町からこうした金銭的支援を受けられているというお話も聞きました、地元の吾北分校として、大変手厚い支援を受けているなというふうに思っておりました。</p> <p>そのご説明のなかで、「新たな支援も検討する」というようなことを書かれておりましたが、それはまた、どういうふうな物資、物心両面において、あるのではないかと思います。その点で、少し支援を検討するというのは、どの程度なのかということが分かれば、お聞かせいただきたいということが、一つでございます。</p> <p>それと、ここも本当にいろんな面で、生徒数確保の点が難しいというふうに思われるデータも見ておまして、今まで以上にこの学校を支援するとすれば、いの町として生徒を集めるために、どういう手立てをいの町としてお考えになられてるのかという点、お話しいただければというふうに思います。</p>
いの町長	<p>新たな支援について、今のところ、具体的に提案が学校の方からあるとか、そういったことではないんですけども、未来を考える会など、また、地域を回らせていただいた時に、地元の方から、例えば、寮ができないとか、親子で一緒に吾北地区、本川地区に移り住んでいただいて、そこから通っていただく町の住宅ですね。町営住宅なんかを利用できないとか、そういった提案もいただいているところでございます。</p> <p>具体的には、今後、皆さんとそういったことについて、できること、できないことを整理していったら、吾北分校に対して、生徒が集まっていく施策を考えていきたいと考えているところでございます。</p>
平田委員	<p>どうもありがとうございました。ぜひ、高知県の中山間地域にとって、学校は必要だと思いますので、できるご支援を今後とも、またよろしくお願ひしたいというふうに思います。</p>
竹島委員	<p>ありがとうございました。本当に、町長さんの熱い想いが伝わってきたんですけれども、私も今日、吾北分校の方へ行っておりました。</p> <p>今日は本当に寒かったんですけれども、生徒たちが、ちょうど帰りの時間帯で、バイクへ乗って帰っていたんですよ。その様子を見て、道も狭いし、多分これから寒くなると凍結とかありますよね。それでナンバーを見たら、高知市って書いてあったんですよ。高知市からなら1時間ぐらいかかりますのでしょうか。ちょっと危ないなという感じもしましたが、学校で、寮とかの設備はないかと聞いたら、「こういった手厚い補助を受けているので、寮の設備はありません」と聞いたのですけれども、何か帰りにそういう様子を見て、3年間安全に勉強をしてもらったんだら、もう少しそういった面の補助も、まちとして考えていただければと思います。</p> <p>あと、時間的なことを書かれていましたよね。部活動とか勉強もってことを書かれていましたが、これは本当に全員じゃない、近くの生徒さんのことだと思うんですね。</p>

	<p>だから、やはり遠くから通われている生徒さんもいると思うので、5年後10年後の先のことを、存続のことを考えた場合に、もう少し寮とかのことを私は考えていただきたいなと思いました。</p>
<p>いの町長</p>	<p>地元の方たちからも、そういったお話が出ておまして、旧校舎を利用した寮とか、あるいは本川地域にある教職員の住居とか、そういったものの利用はできないかというご提案もいただいておりますので、今後、課題として一緒に考えていきたいと思っております。</p>
<p>田村教育長</p>	<p>寮は、県立学校の寮なので、本来であれば、県教委がということではあるんですけども、なかなか県教委自ら、造りにくいという部分もございます。協力いただければ大変ありがたい。</p> <p>そのほか、ございますか。</p>
<p>各委員</p>	<p>構いません。</p>
<p>田村教育長</p>	<p>それでは、どうもありがとうございました。</p>

ウ 土佐市

<p>田村教育長</p>	<p>それでは、お待たせいたしました。最後になりますけれども、土佐市の板原市長様の方から、ご意見をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
<p>土佐市長</p>	<p>今日は、こうした機会を持っていただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>今日は、他の地域と違って、パワーポイントの資料などはございませんし、応援団もいません。校長先生は来ておりますけど、そんなようなことで、不十分かなとは思いつつながら、かつ熱い支援とかさせていたでないという点で、当人としては、非常に恥ずかしながらの世界になりますが、地元の市長としての意見を申させていただきますと思います。</p> <p>約5分程度のご説明をさせていただきますと、後でまた、ご質問にお答えする形で、報告させていただけたらと思っておりますので、よろしくお願ひを申し上げます。</p> <p>土佐市におきましては、高岡高校と高知海洋高校があるわけでございまして、まず高岡高校、そして高知海洋高校と分けて、お話させていただきます。</p> <p>高岡高校の存続を望む声というのは、大変強いものがあります。私もそういった同じ意見を持っておるわけでございますけれども、しかしながら、校長先生にはちょっと厳しい話になるかもしれませんが、イメージとしては、非常に、市民の間には希薄な部分がどうしてもあります。</p> <p>これは結局、在校生のほとんどが、土佐市内の在住ではない方が来ておるといふふうなことで、子弟がそのまま高岡高校に行っていないことが関係あると思います。</p> <p>ただし、従前は本当に、まんが甲子園などでの活躍を覚えておられる方</p>

もいらっしゃると思いますけれども、まだそれ以前には、ラグビーとかいろいろな、すごく活発な時期もございまして、その卒業生がたくさんいらっしゃるということで、「なくなったら困るぜよ」という意見は大変に多い、強いのは確かでございます。

しかしながら、現実問題、在校生は土佐市在住の人がほとんどいない状態でございます、また地域との関わりといったものも、非常に希薄と言いつけるというふうに思います。

なので、地域との関わりの中かで、キャリア教育とか、また防犯の取組として、生徒さんが中学生にいろんな教える取組なんかもしてくださっております、非常にご努力は分かるわけですが、なかなかやはり、子どもさんが土佐市民でないというふうなところが、希薄さを感じる状況になっているんじゃないかなとは思っています。

やはり、選んでいただける高岡高校になってほしいなという思いがあるのと同時に、地域との関わりが希薄という意味で、例えば、中学校の運動会に高校生が来るとか、そういった交流といいましょうか、お兄ちゃんお姉ちゃんの、顔が見えるようなことがあるといいのかなという部分は、考えるところです。

今、そういった状況が少ないものですから、例えば、高岡高校で運動会をやっているんですけど、あれ何しゆうがやろうって、通りがかりの人が言うくらいのもので、保育園の運動会よりも小さい感じの非常に寂しい状況です。「ああ、あれ運動会やねえ」みたいな、そんなレベルです。非常に、高校関係の者は、私たちも含めて、寂しさを感じるところです。

「すずかけ会」と言ひまして、OBの支援組織があるんですけど、その方々が、かつて学習支援なんかをやってくださっていた時もありまして、その時には、非常に進学なんかも良くて、結構、人気といいますか、進学希望が高まった時期もありましたけれど、それも長続きといいますか、続かない厳しいものがあります。

ただ、「すずかけ会」は、非常に支援を頑張ってくれておるといのは、申し上げておきたいと思ひます。

一方、定時制ですけれども、非常に頑張っているという印象を持たせていただいております。すばらしい教育をされておるといふふうに思っております、先日も、定時制通信制教育 70 周年の時に私も発言をさせていただいたんですが、今の在校生の中で、新聞配達をしながら、学校に通っている子どもさんがいらっしゃって、すごく人柄もいいものですから、独居老人の所へは、「ぜひ声掛けで新聞も手渡しをしちやってや」ということに対して、本当に気兼ねなくやってくれて、非常に地域との和も取れておるし、また、見守り活動なんかに活躍してくれている生徒さんが、実は定時制の方です。

そのように、本当に定時制の教育のすばらしさだと思いますが、サポートもしっかりとされておりました、そういったことで、生徒さんも増えておるといふ状況もございまして。非常に定時制の方は、印象的には頑張っているなというふうに思ひます。

それと、ここも必要性を感じるころをもう一言申し上げておきたいのは、実は中学校で今、不登校がすごく増えています。

特に、高岡中学校が、40 人を超える不登校というような状態になってご

ざいまして、非常に厳しい状況です。児童相談所の方へというような、いろんな事例も起こっており、なかなか中学校の授業も十分にできてない状況です。

そういうなかで、やはり定時制へのニーズっていうのが、高まってきているんじゃないかなというふうに感じておるところです。

なので、そういった子どもさんが事情で、十分な教育を受けてなかった方が、基礎学力も不十分ななかで、定時制の授業を受けるという状況が、かなり高まっておるといふふうに思っています、その点は、非常に大事です。これからの重要な部分であろうと思います。

今、本当に先生が頑張ってくださいって、就職も100%実現をしていただいておりますし、先ほど言いましたように、一人の事例だけを申し上げましたけれど、生徒さんも本当に、すばらしい生徒さんが育っておるといふふうに感じております。

次に高知海洋高校でございますけれど、高知県唯一の水産高校でございます、非常に特徴があるということで、資料にもございましたけど、「ツナガール」といって、今、第9代になってございますけれど、県内各地で、いろんな依頼に基づいて出演をして、高知海洋高校の名前は売れております。

また、地域との関わりにおきまして、ツナ缶とかいう缶詰があるんですけど、非常に人気でして、イベントで一番先に売り切れるというふうな状態です。

また、もう一つの地域との関わりにおきましては、宇佐っていう地域にあるわけですが、ここで、地元の商工会の青年部の方が中心になりまして、宇佐は、昔はカツオ漁の町でしたけれど、今、ウルメイワシを一本釣りというふうに、ウルメを売り出そうということで、青年の方が頑張ってくれるのに呼応する形で、食品関係の高知海洋高校が関わってくださっています。

今、宇佐もん工房といいまして、ウルメの加工工場ができておりまして、県の産振の補助金なんかもいただいて、最初からやっていくなかで、本当に関わっていただいて、一緒になって取組を進めてきてくださっています。その支援もあって、平成27年からは黒字化してきまして、また、工場を増設すると、そういう段階までできております。

そういったことで、高知海洋高校につきましては、実績も含めて、非常に地域との関わりを持って、手伝ってくれているという印象を持っております。

いずれにしても、各校とも非常に地域にとりましては、重要性のある学校ばかりでございます。

ただ、先ほど言いましたように、高岡高校の普通科については、若干、地域のイメージとしては希薄であって、先ほどの嶺北の話ではないですけど、子どもさんが行きたい、保護者が行かせたい学校には、恥ずかしがらなっていないかなと。そこで、地域が活かしたい学校づくり、これは一定可能な部分もあるかなと思いつつも、やっぱり厳しい部分があるかなと。

魅力化づくりプロジェクトとかの話がありましたけど、やはり、それもなかなか、自分たちの子弟がほとんどおらない学校に対する支援という形にしかならないわけですので、どこまでいくのかなと。そういう愛着を持

った方は、大体、高齢化してきておりますので、なかなかそういった熱い想いを継続化しきれないんじゃないかなというふうには感じております。

しかしながら、かと言って、存続するために、どうしたらいいのかという意味で、いろんな議論があるんですけど、一部最近、よく出てきておりますのは、先ほどもございました中高一貫っていう話で、中学校と高校の一貫教育、連携から入らなければならないかなと思うんですけど、やはり、そういったことじゃないと生き残りができないのかなと思っています。

なので、お兄ちゃんお姉ちゃんの顔が見える関係を常につくっていくことがないと、なかなか厳しいものがあるのかなと思っています。ぜひ、選んでもらえるような高校として存続していけるには、結局、厳しいのかなというふうには感じています。

ただし、土佐市の現実問題として、中学校にも非常に厳しい少子化の波が訪れております。今、高岡中学校だけで400人の生徒数がありますが、土佐南中学校と戸波中学校もありまして、全部足して500人ちょっとという生徒数です。大体1学年で200人規模の生徒ですが、そのうちの3割ぐらいはもう高知市に抜けて、7割ぐらいが残るといような形です。例えば、戸波中学校ですと、1年生が11人、2年生も11人、3年生が18人、全部で40人というような状態です。

要するに、実は中学校も統合を視野に入れなければならない時代が来ておるとい認識も持っていて、昨年はアンケートも行ったのですが、できる限り、そのまま置いておいてほしいというような、皆さんのアンケートの結果でした。

やはり実態として、いろんなスポーツもなかなかできない。サッカーをするなら、1クラスで11人、全員出ないかんというような状態で、非常に厳しい。もう他の学校と一緒にやらないと、とてもじゃないけどできないようなことで、野球なんかも、そういった形でやっておるといのが実態です。

そういった非常に厳しいなかで、さらに高校との中高一貫、あるいは連携というのは、どこまで視野に入れられるのかなというのもあって、非常に厳しい少子化のなかで、苦しい状況があります。

あと、申し抜かっていしましたが、市としての支援ですけど、他の市町村は、すごい支援をされておられるなと思って、すごく肩身が狭いんですけど、支援としてあえて探すと、定時制・通信制教育の振興補助、これだけです。他には何もしておりません。

ただし、これから新たな内容として、実は、市制60周年が来年度に来るんですけど、その段階におきまして、ぜひ、生徒議会といいますか、子ども議会みたいなものを、できないものかなというふうには考えています。

ただし、先ほど言いましたように、土佐市民でない生徒さんに対して、どこまで、アイデアを引き出して、地域との愛着を持って、みたいな話になかなかかなりにくいところもありまして、高校には、やっぱり難しいろうかねという、今そういった議論をしておるとい段階でございます。

たった5分と申し上げましたが、早や10分ぐらい経ってしまいましたので、以上とさせていただきます。よろしく申し上げます。

田村教育長	<p>ありがとうございました。高岡高校、高知海洋高校、それから高岡高校定時制も含めて、大事に想っていただいている反面、高岡高校全日制の方については、なかなか地元からの進学者が少ないというのが、尾を引く問題ではないかということで、その対策として、中高一貫なり中高連携、こういったことに持っていく必要があるんじゃないかというご意見でした。</p> <p>一方で、中学校の方も、生徒減の問題もあるというようなお話でございました。</p> <p>ご意見がございましたら、お願いします。</p>
木村委員	<p>ありがとうございました。先ほどのお話をお聴きして、地元の住民の皆さん方が、学校に対する愛着が薄いというのを非常に残念に思ったのですが、先日、山田高校へお邪魔した時に、行政と香美市の商工会と学校の生徒たちが一緒になって、いろんな授業をやっています。その中で、子どもたちに、香美市を愛する気持ちがどんどん芽生えているし、地域の方々は、学校をもっと支援しようという想いが高まっている。</p> <p>ぜひ、そういう形に持って行かないと、やはり、子どもたち自身が、高岡高校を卒業してよかったと、高岡高校が大好きだと思えるような仕組みを、ぜひお考えいただきたいというふうに考えるところです。</p> <p>市政が目指す、長期ビジョンといたしますか、姿がありますよね。それと、土佐市に住む住民の皆さん方が、こんな市だったらいいなと思う姿、それと、学校がどうあるべきかというもの、この3つがうまくリンクをしていくということが、理想的な形だと思うんです。</p> <p>行政の将来ビジョンといたしますか、長期展望的なところで、何か学校に関わることがありましたら、お教えいただいたらと思います。</p>
土佐市長	<p>市が目指すビジョンは、もちろんあるわけですが、安心・安全ということがブームになっていまして、今、本当に防災に対するニーズが高まっております。高知海洋高校は、そういった形で地域との関わりにも、防災も取り入れてくださって、やっけてくださっておるというのはあります。</p> <p>高岡高校につきましては、先ほどのお話にございましたように、一緒に、従前から考えてはくださっておって、地域の特産品開発ということで、文旦とか、そんなものを使った加工品開発について、実は高岡高校の生徒さんが関わってくださっておった経緯がございます。</p> <p>そういった取組はありますけど、なかなか広がりがなくて、続いてないというのが実際あって、まだまだ、打ち足りないのかなというふうには思っていますが、そういった行政でできるところは、一緒に関わってもらうような形のことを、これからもやっていきたいというふうには思います。</p> <p>市政 60 周年記念というのをスタートにしながら、次につなげていく取組をぜひ考えていただいてやれたらなど。若い、本当に、やっぱりアイデア等、含めてあると思いますので、いろんな、座学をはじめ、子どもさんと話をすると、非常におもしろいことがたくさん出てきます。</p> <p>ということで、そういった工夫のご意見なんかも、また、期待を持ちたいなというのがあって、そういった子ども議会みたいな話はさせていただいたんでございます。貴重なご意見ありがとうございました。</p>

平田委員	<p>高知海洋高校でございますけれど、高知海洋高校は土佐市でございますが、高知県で1校でございますので、考え方としては高知県全域から、やはり将来、水産関係に興味・関心の高い子どもたちが集まっていたくというのが、理想形だというふうに思います。</p> <p>高知県の産業振興について、やはり農林水という一次産業が高知県のメインだと思いますので、いろんな面で土佐市としましても、高知海洋高校にご支援はいただいていると思います。</p> <p>それと、土佐市宇佐ってというのは、宇佐っていう名前は、水産業で全国級のブランド名でもあるというふうに、私はある面では思っております。そこで、そういう面で、土佐市の産業と高知海洋高校が連携をして、一層、土佐市の水産関係の産業が活性化するような、そして、学校が活力を持つような、学校になってほしいというふうに思っておりますので、ぜひ、できるご支援をお願いしたいなという思いです。</p> <p>どの学校も様々な努力をしておりますけれど、残念ながら人数的なものは、増加傾向ではないと思っておりますので、また、いろんなご支援をお願いしたいなと思いました。</p> <p>高岡高校につきまして、学校の管理職としてのいろんな難しさもあると思うところもございますし、ぜひ市長さんからお話もありましたように、地域の小中高が一体となって、やはり、土佐市が教育の市に一層なりますように、またお取り組みをいただけたらというようなことで、お話を聴かせていただきました。</p>
土佐市長	<p>まず、高知海洋高校の件でございますけれども、話題のとおり、今日までも支援をいただき、また、うちも、一定の支援をさせていただいてきた経過があるわけです。</p> <p>やはり、お話にありましたとおり、一次産業のなかで、加工ですので、二次になるかもしれませんが、ウルメの話を申し上げましたけど、非常にご支援をいただき、共にモチベーション高くといえますか、やってきていただいたなというふうに思っていますし、非常にいい関係を構築させていただいておるといふふうに思っています。</p> <p>例えば、新たな産物、特産品開発なんかにも、ぜひ、加工施設なども持っておられますので、活用いただいて、またアイデアもいただいて、一緒になって開発していくというようなことができるように、また高校の方とも話をさせていただいて、できる支援はさせていただきたいというふうに思います。大変ご貴重な意見だったと思います。</p> <p>それから、中高一貫、小中高の一貫のことにつきましても、ぜひ、私も一歩踏み込んだ形の取組をやってみたいなというふうに思います。今日も、いろんな先進事例をお聴きしていたなかで、これはいけない、他ではすぐやっているというふうに、むしろ勉強させていただいた気がしています。やはり、そういったことも、地域活性化の核になっていただくことが一番ベストですので、そういった取組、考え方で、お兄ちゃん、お姉ちゃん、また子どもたちの顔が見えるような形の取組ができるような、工夫を少し教育委員会とも諮ってやってみたいと思います。</p> <p>本当に、貴重なご提言をいただいたというふうに思っております。ありがとうございました。</p>

八田委員	<p>ありがとうございました。高岡高校は、不登校の生徒さんとか、発達障害のある生徒さんに対応するというようなこともあって、非常に、基礎学力を定着させるために、先生方が本当に苦労して頑張っておられる状況です。</p> <p>しかし、そのゴールは、なんとか高校を卒業させることではなくて、社会にちゃんとして送り出したいんですね。でも、そういう生徒さんの多くは、なかなか自分からアクティブに社会に入っていけない。厳しいのは、なかなか先生方も、社会とのつながりをつくるというイベントを打つ余力も実際ないのかなというふうに私も感じます。</p> <p>それで、これは無理なお願いかもしれませんが、地域の方から、おせっかいではないが、無理やりにも入って行って、そういう生徒さんが、どうやって社会へ出て行くかっていう、何かきっかけをご提供いただければ、ありがたいかなと感じます。</p> <p>また、高岡中学校なんかでの不登校への対応も、苦慮されていることだと思いますので、その辺りは一緒に研究して、どういう対応をしていくのがいいのか、非常に難しい問題の連携になりますけども、ぜひ、合流させていただければと思います。よろしくお願いします。</p>
土佐市長	<p>少し変な話ですけども、実は、定時制の生徒さんと、イベントで一緒したことがあるんです。もっと具体的に言うと、よさこいのチームで、青龍（しょうりゅう）っていう、地元の一つだけチームがあって、それで同じチームで私も入って、その生徒さんたちと一緒に去年ですが、よさこいをやりました。</p> <p>そういったなかで、めったに市長と話すことはないじゃないですか。そういったことで、そんなイベントを通じて、ちょっと社会とつながったみたいなの。なんか、本人たちにとっては満足感があつたらしいですけど。それから、「市長と会ってから変わったよ」とかいう話も、大分聞きました。やっぱり、そういったいろんな機会をつくるというのは、ご提案いただいたとおりでと思うので、社会との何か接点があれば、それをきっかけに、なんか変わる。私も実感、それをした経験がございますので、ちょっとまた工夫をさせていただきたいと思います。ありがとうございました。</p>
竹島委員	<p>ありがとうございます。土佐市内の地元の生徒が少ないということで、多分、授業が終われば、帰るわけですよ。そしたら、やっぱり地域との関連もないし、市長さんのお話を聞いていると、何かスポーツでも、文学でもいいので、何か自分がその3年間にやったぞということをしてもらいたいですね。ただし、それは市長さんに言うのではなく、私は、学校の校長先生、教員の方にちょっと言いたいというか、言わなきゃいけないと思います。</p> <p>やっぱり、その大変さを市長さんから聞いた以上は、教育委員として学校訪問もして、考えなくてはと思いました。</p>
中橋委員	<p>私も感想みたいになります。本当に率直に言っていただいて、大変よかったです。この場で結構、「地域で連携しています。頑張ってます。</p>

	<p>す」っていう発言が多いなかで、ちょっと違った方向からの本音の部分が聞けたのかなと思って、大変よかったですと思います。</p> <p>やはり、土佐市の方も色々、ドラゴン広場があったり、仁淀川ふれあいマラソンとか、色々イベントを頑張っていることは、私も知っています。そういった、まさに先ほど話に出ましたけど、イベントとかいうのに、高校生を引っ張り出してもらって、関わってもらったら、段々、そういったところから、全然、土佐市外の生徒でも、土佐市に愛着を持ってということになるのではないかなと思います。これはもう、高校側の問題でもあると思うんですけども、何かうまく連携ができればいいなと思いました。本当に、率直な意見ありがとうございました。</p>
土佐市長	<p>高知海洋高校さんが、本当に関わってくださっているんですけど、来年の11月ごろ「全国豊かな海づくり大会」という、現在の天皇皇后両陛下の、最後の公務じゃないかといわれている行事があって、宇佐で放流行事があるんです。県が主体でやってくれているんですが、高知海洋高校さんも一緒に入って、手伝っていただけるようになっていきますし、そういった取組ができています。</p> <p>他の行事へもこれから、ぜひ、高岡高校にも案内を出して、引っ張り込むような形の工夫をしてみたいと思います。</p> <p>本当に、貴重なご意見をいただきまして、少し言い過ぎたと思いますが、ありがとうございます。</p>
田村教育長	<p>私は、高岡高校の全日制ですが、やはり、高知市に近いということの、何か難しさというのは、すごくあるかなというふうに思っています。相当頑張らないと、高知市の方に引っ張って行かれるという、そういう難しさがあると思います。</p> <p>それはもう、学校側も考えてもらっていると思いますけれども、そのような形で学校として取り組んだうえで、市からのご協力をよろしくお願いしたいと思います。</p>
土佐市長	<p>この間、春野高校の創立110周年記念事業に行った時に、高岡高校と比べてしまっていて、すごく生徒がいるなと思いました。やはり、高知市に向いて生徒が行くんだなと。結局、近さもあって春野の方へ、結構土佐市から進学しています。</p> <p>そんなこともあって、変な話ですけど、あっさり言わせてもらったら、「制服がえい」とか、「高高（たかこう）はダサイ」とか。まあ、そういったことで決める人もいるようです。そういったことも工夫があればいいかなと思います。</p>
田村教育長	<p>板原市長様、どうもありがとうございました。</p> <p>発言を予定しておりました皆さんからのご発言は、以上でございますけれども、会場から、もしご意見がございましたら、お聴きいたしますけれども、いかがでしょうか。</p>
会場	<p>特になし</p>

【閉会】

田村教育長	それでは、特にならぬようにございますので、少し時間が超過いたしましたけれども、以上でこの会を終わらせていただきたいと思います。本当にどうもありがとうございました。 あと、事務局から何かありますか。
山岡企画監	次回、第5回の教育委員会協議会は、四万十町の農村環境改善センターで、1月15日に開催しますので、よろしくお願いいたします。